

インターバンクの声（2016 年 12 月 8 日）

昨夜のロンドン市場入りしてからの円相場は、12 月に入ってから一番取引される時間が長くなっているように感じられる 114 円を挟んで上下に 15 銭程度の小動き相場が数時間続いた。欧州勢にしてみれば朝方の 10 月英鋳工業生産が発表された後は注目するような指標発表もなく、翌日に欧州中央銀行 (ECB) 理事会が控えていることもあって、取引自体が低調だったことも影響していた。

しかし、日本時間の午前零時を回って、ドルがユーロや円に対して急に売られ始めた。それまでも少し低下傾向にあった米長期金利の下げ幅が急に大きくなり始めたことに反応したようだ。さらに来週の米連邦公開市場委員会 (FOMC) は、利上げはするものの、景気判断や政策運営についてはこれまでと同じように慎重な姿勢を示すのではとの予想が広がり始めていることも影響していたようだ。

ロンドン・フィクシングがらみの取引が影響したとの噂もあるが、こればかりは当事者にしか判らない。市場にはさらなる円安を見通す参加者が多いようにも思われるが、ドルの上値 114 円台後半をなかなか突破出来ないのも、足元では堅そうに見える下値の 113 円台前半を崩して見ようとする動きもあるようだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。